

黒字の部分は第二刷（2010年11月）では全て訂正されています。赤字部分は第二刷にも該当。誤記と正記の差異に下線をしてあります。発音のストレス（アクセント）は本書ではゴチックになっていますが、見落としやすいので本表ではゴチックに加え下線をしてあります。

Page		誤記	正記
v	献辞1-2行	私の意識が <u>すべて</u> てこの本に	私の意識が <u>すべて</u> この本に
xv	1行	五十順に	五十音順に
4	訳注	顕性、 <u>不顕性</u>	顕性、 <u>潜性</u>
27	図2.2説明	引用文献 A, F. Nimmerjahn	(著者に照会中)
42	図2.19A右レーン	多クローン性Ig	単クローン性Ig
35	図2.9 *5	神経芽細胞腫	神経芽腫
37	*2	英語読みはポリプ	英語読みは <u>ポ</u> リプ (ゴチ)
48	訳注3	形容詞は <u>mutagenecity</u>	形容詞は <u>mutagenic</u>
58	4段目7行	口蹄疫	口蹄疫
66	1段目1行	(サルの細胞に及ばず)	(サルの細胞に及ぼす)
67	サイドバー3.2右19行	進行性多病巣性白質脳症	進行性多巣性白質脳症
87	ページ見出し	概念と見通し	概要と見通し
96	図4.2左	化学薬品で形質転換したマウス	化学薬品で形質転換したマウス <u>繊維芽細胞</u>
106	*訳注	<u>グ</u> ライシン	<u>グ</u> ライシン (ラが太字)
106	表4.2左	睪 甲状腺 (乳頭性) 甲状腺 (濾胞性) 結腸直腸 Seminoma 脊髄形成異常症 肺 肝 Bladder 腎	睪がん 甲状腺がん (乳頭性) 甲状腺がん (濾胞性) 結腸直腸がん 精上皮腫 骨髄異形成症候群 肺がん 肝がん 膀胱がん 腎がん
	表4.2右	60 (H, K, N) 55 (H, K, N)	60 (H, K, N) 55 (H, K, N)
108	表4.3右7行	(N-rasの行) 転写因子	<u>低分子量Gタンパク</u>
117	設問6	くまなく <u>教</u> えあげる	くまなく <u>数</u> えあげる
126	図5.7説明下から12行	スレオニンキナーゼ	スレオニン <u>キ</u> ナーゼ
127	*	英国ではリ <u>ガ</u> ンド	英国では <u>リ</u> ガンド
130	図5.11	チロシン <u>チ</u> ナーゼ	チロシン <u>キ</u> ナーゼ
139	2段目1行	EGFやFGF受容体	EGF受容体やFGF受容体
140	2段目3行	EGFやFGF受容体	EGF受容体やFGF受容体

141	図5.18 (A)	エクソン17肥満細胞症	エクソン17: 肥満細胞症
	(B)	N末葉 <u>ローブ</u>	N末葉
	(C)	C末葉 <u>ローブ</u>	C末葉
		N ₂	N
		C ₂	C
147	*	米国では <u>ファイ</u> ブロネクチン	米国では <u>ファイ</u> ブロ <u>ネ</u> クチン
153	図5.31	N ₂	N
		C ₂	C
158	設問5	ヘテロ・ <u>三</u> 量体 (原文)	ヘテロ・ <u>三</u> 量体 (著者に連絡済)
168	*	英語読みはフォス <u>ファ</u> テイス	英語読みは <u>フォ</u> スファテイス
176	3段目7行	「産物 <u>を</u> して同定された」	「産物 <u>と</u> して同定された」
178	*	<u>ドイツ語</u> 読みにしてインターリューキンともいう	<u>英語</u> 読みにしてインターリューキンともいう
179	2段目2行	「PIP ₃ に統合する細胞」	「PIP ₃ に結合する細胞」
184	*1	ROと略す.	RO <u>S</u> と略す.
185	*1	RaG12Vを指す.	Ra <u>s</u> G12Vを指す.
185	*1	英語読みは <u>ジェ</u> イナス・カイネイス	英語読みは <u>ジェ</u> イナス・ <u>カ</u> イネイス
187	*	フォーカルアド <u>ヒ</u> ーション	<u>フ</u> ォーカルアド <u>ヒ</u> ーション
189	*1	ウイントと読む	<u>ウ</u> イントと読む
191	*	ダイアシルグ <u>ライ</u> セロール	ダイアシルグ <u>リ</u> セロール
194	図6.29 (B)	Deltaまたは... <u>Notch</u> リガンド	<u>Notch</u> リガンド Deltaまたは...
	(D)	「I型受容体」の指示線	右の濃緑色に連結
203	4段目5行	浮かび上がってる	浮かび上がって <u>く</u> る
206	7段目3行	Notch	Notch
239	5段目1行	APC	APC
240	図7.25 (B)	N ₂	N
		C ₂	C
245	図7.29 (B)	N ₂	N
		C ₂	C
250	サイドバー7.10訳注*2	モ <u>ゼ</u> イセック	モ <u>ゼ</u> イック
256	1段目3行	時間経過を教えるため	時間経過を数えるため
	1段目5行	経過時間を教える	経過時間を数える
289	サイドバー8.6右6行	小さな断片化する	小さく断片化する
	本文3段2行	p15 ^{INK5B}	p15 ^{INK4B}
291	図8.31説明8&19行	p15 ^{INK4A}	p15 ^{INK4B}
309	図9.2説明10行	物理的 <u>が</u> 会合する	物理的 <u>に</u> 会合する
321	*2	<u>cdkn2a</u>	<u>Cdkn2a</u>
324	図9.16説明7&8行	(E2F, <u>緑</u>) ... (<u>赤</u>)	(E2F, <u>赤</u>) ... (<u>緑</u>)
327	表9.2 第2列	p53AP1	p53AIP1
335	図9.22 (A)	[卵をマウス初期胚 (胚盤) に注入]から以下	[卵をマウス初期胚 (胚盤) に注入]から以下
		[一部の胚からは、配偶子を含む...]の直ぐ上までを	[一部の胚からは、配偶子を含む...]の直ぐ上までを

		p431図11.24 (A) と同様に[クローン化した遺伝子を...]から [一部の胚からは、配偶子を含む...]の直ぐ上までと同じに差し替える [一部の胚からは、配偶子を含むすべての細胞に導入遺伝子を持つマウスが生じる] とあるのを[一部の胚からは、配偶子に導入遺伝子を持つマウスが生じる]と変更。	
4番目のボックス			
	脚注追加	*図9.22(A) は著者に確認して訂正	
338	2段目5行	コピー奪われた	コピーを奪われた
339	図9.27説明右6行	およびBadタンパクが	およびBakタンパクが
348	表9.5脚注d	脱リン発酵素	脱リン酸酵素
365	3段目4行	変株細胞はvariants 抗腫瘍	変株細胞variantsは抗腫瘍
	図10.6(A)解説	酸素濃度のほうが	酸素濃度の方が
	図10.6(B)解説	ときにはさらなる	ときには更なる
374	図10.19	タランキラーゼ1/2	タンキラーゼ1/2
386	2段目4行	postembronic	postembryonic
409	図11.9と11.10	初期—>中期腺腫—>後期	初期腺腫—>中期腺腫—>後期腺腫
411	図11.19 (B) キー	2N Ki*/二倍体	2N Ki ⁺ /二倍体
419	2段目6行	一過性増幅細胞	一時的増幅細胞
423	図21.21横軸	染色体数増加	染色体番号増加
426	図11.22説明5行	すべてではなく散在する	散在する一部の
426	図11.22(B)	最初の診断	双生児の最初の患者の診断
		2回目の診断	2番目の患者の診断
428	表11.1一行目	「ras様ras-like」	「ras様」
		「myc様myc-like」	「ras様」
	表11.1脚中	表の一行目と同じく、ras-like, myc-like を削除	
431	図11.24(A) 4番目のボックス		
		[一部の胚からは、配偶子を含むすべての細胞に導入遺伝子を持つマウスが生じる] とあるのを[一部の胚からは、配偶子に導入遺伝子を持つマウスが生じる]と変更。	
	脚注追加	*図11.24(A) は著者に確認して訂正	
444	1段目3行	(図11.36, 右のパネル)	(図11.35B, 右のパネル)
452	表11.3左18行	Tuberculosis bacillus	「結核菌」の右に移動
457	1段目3行	したがって	例えば
467	図12.2 (C) 出典	C. S. Potter	C. S. Potten
470	1段目1行	運命決定された	運命づけられた
479	3段目4行	巻き戻されて	ほどかれて
482	サイドバー12.3,15	これらの酸化物は近隣の細胞に対して変異原として作用し、 ニトロ化、酸化、脱アミノ化、ハロゲン化などの化学反応を介して修飾された塩基を産生することがあり、ゲノムに対して変異原として作用する。	これらの酸化物は ニトロ化、酸化、脱アミノ化、ハロゲン化などの化学反応を介して修飾された塩基を産生することがあり、 <u>近隣の細胞のゲノム</u> に対して変異原として作用する。
482	サイドバー12.3左1行	組織の慢性炎症では、	組織の慢性炎症は、

	左4行	大部分は除去さて適正な	大部分は除去されて適正な
497	下から6行	このタイプの <u>ENR</u> は	このタイプの <u>NER</u> は
497	最下段最下行	<u>傷害</u> されて	<u>障害</u> されて
499&501	ページ見出し	DNA修復遺传的欠損は...	DNA修復の遺传的欠損は...
500	2段目6行	と呼ばれる誤りがちな	と呼ばれる) 誤りがちな
	2段目10行	と考えられている。)	と考えられている。
509	図12.33説明3行	姉妹染色体	姉妹染色分体
511	2段目4行	断裂—融合—断裂 (BFB)	断裂—融合— <u>架橋</u> (BFB)
	3段目5行	断裂—融合—断裂 (BFB)	断裂—融合— <u>架橋</u> (BFB)
514	1段目4行	断裂—融合—断裂 (BFB)	断裂—融合— <u>架橋</u> (BFB)
	3段目3行	過剰数の <u>染色体</u> の出現を	過剰数の <u>中心体</u> の出現を
516	1段目1行	姉妹染色体	姉妹染色分体
	5段目本文1行	<u>350</u> 億年前	<u>35</u> 億年前
518	最下段2行	すなわち、	(3行へ移動)
	3行	できたp53陰性の	できた。すなわち、p53陰性の
519	2段目4行	断裂—融合—断裂 (BFB)	断裂—融合— <u>架橋</u> (BFB)
530	図13.3説明文左最後	さらにその周りは脂肪細胞に囲まれている (イキ)	さらに <u>内側には脂肪細胞を囲んでいる</u>
	説明文右出典E	Cancer 95:1387-1395, <u>2003</u> より	Cancer 95:1387-1395, <u>2002</u> より
531	4段目3行、4行	<u>形質転換</u> 増殖因子	<u>腫瘍細胞</u> 増殖因子
539	図13.8 右下	移植した <u>PC-3M</u> 細胞株	移植した <u>Colo205</u> 細胞株
540	図13..10説明2行	これら <u>3つ</u> のフローチャート	これらのフローチャート
553	2段目4行	よって支え <u>さ</u> れている	よって支え <u>ら</u> れている
563	図13.34 タイトル	図13.34	図13.35
564	図13.37説明1行	Rip-Tag 遺伝子	Rip-Tag 遺伝子
565	サイドバー13.75行	マウスを交配させる	マウスと交配させる
568	図13.40説明右訳注	病理学的におよび臨床的には	病理学的におよび臨床的には
		<u>上皮内がんということも多いが、PINや上述のDCISは...前がん病変である。</u>	<u>上皮内がんや非浸潤性がんとも云う。</u>
570	2段目5行	腫瘍 <u>随伴</u> 血管	腫瘍 <u>関連</u> 血管
570	2段目6行	循環中の <u>ECPs</u> に由来する	循環中の <u>EPCs</u> に由来する
591	図14.4右上	多様な器官の微小血管での <u>繫留</u>	多様な器官の微小血管での <u>繫留</u>
592	図14.5説明2行	原発腫瘍から離れて () 右方へ	原発腫瘍 () から離れて右方へ
	図14.5説明3行	1個ずつ <u>縦列</u> をなして	1個ずつ <u>列</u> をなして
585	問題5	腫瘍 <u>随伴</u> 血管	腫瘍 <u>関連</u> 血管
595	本文8行目	10 ⁶ 個の <u>周囲細胞</u>	10 ⁶ 個に <u>及ぶ周囲の間葉細胞</u>
596	3段目2行	細胞内で <u>長期的</u> 存続しても	細胞内で <u>長期間</u> 存続しても
598	サイドバー右段	図14.11B	図14.11C
	11, 13行		
601	2段目12行	活性化し <u>さ</u> へ	活性化し <u>さ</u> え

603	ページ見出し	EMTとE <u>カ</u> ヘリン発現の消失	EMTとE <u>カド</u> ヘリン発現の消失
603	図14.15説明20行	sm-actin, α 平滑筋アクチン	削除
605	図14.16説明文最後	可能にする。	可能にする <u>からだ</u> 。
605	3段目9行	異種移植 <u>xenografted</u>	異種移植 <u>xenograft</u>
606	1段目1行	免疫無防備の	免疫不全の
606	図14.17説明3行	<u>掛かる</u> わけマトリックス	<u>とりわけ</u> マトリックス
609	3段目最後	<u>譲る</u> 作用	<u>護る</u> 作用
612	図14.22右11行	J.W. Pollard	J.W. Pollard
613	図14.23説明3行	細胞外基質を浸潤させる	細胞外基質を <u>通って</u> 浸潤させる
616	表14.3右列5行	浸潤性 <u>線</u> 管がん	浸潤性 <u>腺</u> 管がん
620	図14.29説明右3行	<u>胆</u> がんマウス	<u>担</u> がんマウス
621	*	<u>メ</u> イトリックス・ <u>メ</u> タ <u>ロ</u> プロテイナー	<u>メ</u> イトリックス・ <u>メ</u> タ <u>ロ</u> プロ <u>ロ</u> テイナー
625	3段目3行	という <u>、</u>	という <u>、</u>
632	3段目11行	組織科学的	組織学的
633	図14.41説明右5行	見張りリンパ節	見張り <u>役</u> リンパ節
636	3段目5-6行	がん細胞が () 門脈を介して	腸管から排出され、 がん細胞が <u>腸管から</u> () 門脈を介して 排出され、
641	3段目本分2行	それらの多く <u>す</u> ではなじみの	それらの多くは <u>既</u> になじみの
	図14.48説明13行	(左上方と中断)	(左上方と中段)
646	四段目5行	浸潤し移転する	浸潤し <u>転</u> 移する
650	5段目2行	問題をしている。	問題となっている。
662	図15.8(A) 下半	APCとT _H 細胞の間で起きる <u>非</u> 生産的相互作用	APCとT _H 細胞の間で起きる <u>生</u> 産的相互作用
674	図15.18説明3行	RGA1およびRAG2タンパク	RAG1およびRAG2タンパク
687	2段目3行	を誘発することができる	を誘発する <u>こ</u> とができる
694	図15.28説明右4行	β_2m 遺伝子	β_2m 遺伝子
700	図15.32説明右7行	TGF β II受容体	TGF β II型受容体
705	1段目4行	産生されるからである	産生するからである
709	2段目1行	その選択性が <u>が</u> ゆえに	その選択性ゆえに
717	2段目4行	腫瘍随伴血管	腫瘍 <u>関</u> 連血管
723	「これらの問題を…」	がん細胞がどのように…	1. がん細胞がどのように…
	以下順番に	1. がん細胞の免疫原性を…	2. がん細胞の免疫原性を…
	7. まで。	2. 免疫の諸機能を…	3. 免疫の諸機能を…
		6. 臨床的に明らか…	7. 臨床的に明らか…
728	図16.2 縦軸	人口10万人あ <u>た</u> りの年齢…	人口10万人あ <u>た</u> りの年齢…
728	2段目1行	粘膜内 <u>in situ</u> 乳がん	<u>上</u> 皮内 <u>in situ</u> 乳がん
729	4段目3行	サブタイプとして <u>階</u> 層化…	サブタイプとして <u>層</u> 別化…
	4段目11行目	B細胞性リンパ腫	B細胞 <u>様</u> リンパ腫
730	図16.4説明A17-18行	<u>特</u> 性	<u>特</u> 徴
731	図16.5 (C) 右	<u>獲</u> 得chr.3q	chr.3q <u>獲</u> 得

	獲得／増幅chr.9p24	chr.9p24獲得／増幅
	(<u>m</u> M)	(<u>μ</u> M)
732 図16.5 (D) 横軸	造血系前駆体細胞	造血系前駆細胞
734 図16.7説明7行	ng/ml) ドキソルビシン	ng/ml) のドキソルビシン
736 *	CDK2b (Cdk2b)	CDK2b (Cdk2b)
738 本文最下行	不安的化したり	不安定化したり
737 5段目4行	(空洞cavities)	(空洞cavities)
737 6段目5行	FOS	Fos
743 図16.13説明A11行	シグナル調節される	シグナルで調節される
750 3段目1行と8行	図16.9は	図16.19は
754 訳注*2	クオリティ (2カ所)	ク オ リティ (ストレス位置)
756 表16.2例最下行	シクロホスフアミド	シクロホスファミド
本文一段目2行	表している*1, 表16.2...	表している*1. 表16.2...
763 図16.27(A)下方	プロウイルスを回収するが、PCRで	プロウイルスを回収する か 、またはPCRで
765 図16.30説明10行	場合ように、	場合 の ように、
766 図16.31(A)	アニリ ニ キナゾリン骨格	アニリ ノ キナゾリン骨格
771 サイドバー16.3/28行	機能的に重視している	機能的に重複している
775 2段目1行	身を護るのにNF-...	身を護るのにNF-...
777 訳注*2	発音はサイクロウピズ	発音は サイ クロプス、複数は Cyclopes サイクロウピズ
777 図16.39説明1-2行	カリフォルニア・バイケイソウ <i>Veratum californicum</i>	カリフォルニア・バイケイソウ <i>Veratrum californicum</i>
779 2段目3行	PTC遺伝子	PTCH遺伝子
780 二段目2行	一団の広範な、培養ヒトがん細胞がSmoothened...	一団の広範な培養ヒトがん細胞が、Smoothened...
786 4段目3行	関連して述に本書で触れた	関連して既に本書で触れた
790 *2	リツキサン	リ ツ キサン
791 本文一段目3行	10 ⁵ 個に1個) と低い...	10 ⁵ 個に1個と) 低い...
792 5段目6行	腫瘍随伴血管	腫瘍関連血管
792 5段目8行	neovasculatue	neovasculature
795 本文五段目1-2行	層別化することは、薬物を...のタイプに研究者と臨床医が適合...	層別化することは、研究者と臨床医が薬物を...のタイプに適合...
A:2 DC (2)	dyskeratosis congenita 先天性角化症	dyskeratosis congenita 先天性角化不全症
A:4 GPI	glycosylphosphatidylinositol	glycosylphosphatidylinositol